

## おおおけ 名の由来

むかし、むかし、那須烏山市大桶は来田村といわれていたそうだと。  
那珂川添いで、古い奥州街道の道筋だったので栄えていた所だったんだと。  
時代は定かではねえけれど、ずいぶん昔のこと、たいへん信心深い村長がおったんだと。  
常日頃から、

「この村に鎮守様をお祀りしたいもんだ」と考えておったと。

そんなある夜のこと、事代主の神様の夢を見たんだと。夢の中のことをいろいろ考えてみたけれど、近くには事代主の神様をお祀りしているところが見当たらねえ。

「どおしたものか」

と、考えていて、ふと、伊豆の三島様のことが心に浮かび、

「ぜひ、お祀りしたいもんだ」

と、心に決め、なにがなんでも成し遂げようと準備にかかったと。

いよいよ出発の日、

「留守中のことは頼んだぞ」

と、家族や村の衆にお願いして出かけて行ったと。

日頃からの信心心のお蔭か、長い道中、何事もなく無事に三島神社に着いたと。訳を話して御霊をお分けしていただくことが出来た。そこで、大きな桶を買い、御霊をお納めし、幣束を立てた。それを背負って、もと来た道を村へと帰って来た。

そして、村の景勝地清水（上大桶）と言うところに、お分けいただいた御霊をお祀りしたんだと。そこは、伊豆の三島様のような清らかな場所だったと。

大きな桶で御霊を背負って来たので、そのときから村の名を「大桶」と改めたと言われているんだと。

おしまい

一口メモ

今ある三島神社は、最初からこの場所に祀られていた訳ではありません。  
永禄十年、再度分霊し、根古屋の照明寺に遷し下の宮と言ひ、清水にあるのを上の宮といつた。

明治に入り、上下の宮を合併し、古城跡に遷す。その後、大正初期、行政指導により字内に点在する小社を合併し現在に至っている。

参考文献 旧鳥山観光協会発行「からすやまの民話」より